

第1回コーデックスを考えるシンポジウム

コーデックスとILSI - サイエンスをもって臨む -



特定非営利活動法人
日本国際生命科学協会
事務局長 福富文武

2004/7/16 F. Fukutomi

ILSIとは何者か？

International Life Sciences Institute

- 1978年、米国ワシントンで発足
- 1981年、日本支部を設立
- 食の安全、栄養、健康、環境に関わる諸問題の本質を理解し、科学的な取り組みによって解決を目指す
- 官、学、産及びパブリックからの科学者による討論を踏まえてコンセンサスを得る
- 成果は、政策、経営、研究・開発、消費者啓発に活用する

2004/7/16 F. Fukutomi

ILSIとは何者か？

- 国際的なハーモナイゼーション推進のため科学分野におけるコーディネートを務める
- 世界に15の支部を置き、研究財団を有する
- 国際機関(WHO,FAO)、地域機構(EU,ASEAN)、各国政府機関に科学的NPO/NGOとして協力
- 430以上の企業会員の支え
- 25,000名以上の科学者の支えと協力

2004/7/16 F. Fukutomi

ILSIのグローバルな課題

- 肥満予防 / Prevention of Obesity
- 食品安全とリスクアセスメント / Food Safety & Risk Assessment
- バイオテクノロジー / Biotechnology
- 機能性食品 / Functional Food

2004/7/16 F. Fukutomi

コーデックスの目的

- コーデックス食品規格の目的は、
 - 消費者の健康の保護
 - 食品の貿易における公正な慣行の保証

「コーデックス食品規格委員会規約」

2004/7/16 F. Fukutomi

コーデックスの基盤

- コーデックス食品規格は、健全な科学的分析および証拠に基づくものでなければならない

「委員会の一時的決定」
コーデックスの政策決定プロセスにおける科学の役割に関する原則

2004/7/16 F. Fukutomi

ILSIのポジション

- FAOにおける正式なNGO
- WHOにおける正式なNGO

として、コーデックスに参加

2004/7/16 F. Fukutomi

コーデックスにおけるILSI

- コーデックス食品規格委員会における検討課題に対して必要な科学的知見と情報を提供
- コーデックス部会に先立って行われるFAO/WHOの主催によるプレ・コーデックスセミナー/シンポジウムの開催に協力
- FAO/WHOの主催するコーデックス食品規格普及/啓発のためのワークショップ/セミナー/シンポジウムの開催に協力

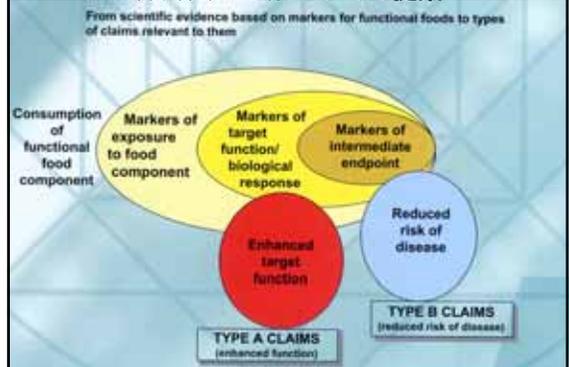
2004/7/16 F. Fukutomi

コーデックスにおけるILSI ケース 1

- コーデックス食品表示部会
- 食品表示の一環としてのヘルスクレームの検討に対する情報提供
「(栄養強調表示以外の)その他の強調表示」
「疾病リスク低減強調表示」
設定への情報提供と提案

2004/7/16 F. Fukutomi

ヘルスクレームについての提案

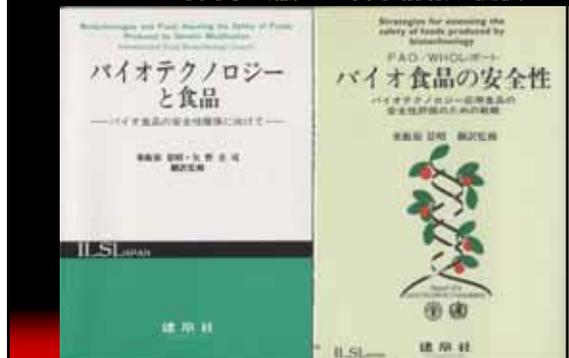


コーデックスにおけるILSI ケース 2

- バイオテクノロジー特別部会
 - 1) FAO/WHO 専門家会議への科学情報の提供
 - 2) プレ・コーデックス・シンポジウムの開催
- 「バイオテクノロジー応用食品の安全性評価のための戦略」専門家会議 (1990)
- 「バイオテクノロジーと食品の安全性」専門家会議 (1996)
- 「バイオテクノロジーによって得られる食品のアレルギー誘発性」専門家会議 (2001)

2004/7/16 F. Fukutomi

FAO/WHO 専門家会議への科学情報の提供





コーデックスにおける思い出

- “ナチュラルミネラルウォーター”を巡る思い出
- 「ナチュラルミネラルウォーターのヨーロッパ地域規格」の策定(1981)
- 「ナチュラルミネラルウォーターの国際衛生規範」の策定(1985)
 - “ナチュラルミネラルウォーターのヨーロッパ地域規格の要件を満たす全ての水を対照とする”
- 「ナチュラルミネラルウォーター国際規格」の策定(1997)

2004/7/16 F. Fukutomi

コーデックスにおける思い出

- “食文化、食習慣”を巡る思い出
- 食品添加物一般基準における食品分類は、ヨーロッパの分類を基本とした
 1. 乳製品 2. 油脂 3. 氷雪 4. 果実・野菜 5. 菓子 6. シリアル
 7. ベーカリー 8. 食肉・肉加工品 9. 魚介・魚加工品
 10. 卵・卵加工品 11. 甘味料 12. 食塩・スパイス・調味料
 13. 特別用途食品 14. 飲料・アルコール飲料 15. スナックス
 16. その他複合食品

2004/7/16 F. Fukutomi

コーデックスにどのように取組むか？

- 日本として、何を求めるか？
- 国際的に訴えるだけの正当性はあるのか？
- それをサポートする情報やデータを持っているか？
- 他の国々を納得させるような理念と戦略を持って臨むことができるのか？
- 支持を得るファンの国々を持っているか？

2004/7/16 F. Fukutomi

コーデックスにどのように取組むか？

- 垂直(個別食品)志向、かつ水平(一般問題)志向での取り組み
- 戦略的志向での取り組み
- 食文化・食習慣のギャップを理解しての取り組み
- アジア・日本の食文化・食習慣を意識してアピールする取り組み
- 日本への適応を思考しての取り組み(リスクアナリシス、HACCPなど)

2004/7/16 F. Fukutomi

コーデックスとILSI

コーデックス食品規格
消費者の健康の保護
食品の貿易における公正な慣行の保証

科学を基盤とした議論と
コンセンサスに基づいて策定

科学NPO/NGOとしてのILSIの役割

2004/7/16 F. Fukutomi

ご清聴有難うございました。

特定非営利活動法人
日本国際生命科学協会
ILSI Japan

ilsijapan@ilsijapan.org
www.ilsijapan.org/ilsijapan.htm

2004/7/16 F. Fukutomi